

南オレゴン大学名誉教授

LAWSON FUSAO INADA

-JAZZ と共に聴く 英語詩朗読会-

To Get to Tokyo: Lawson Inada & the Big Sounds Society Orchestra

2014年7月11日(金)

18:00 開場 18:30 開演

入場無料【予約不要】

【会場】

明治大学 駿河台キャンパス

リバティタワー地下1階1001教室

【対象】

明治大学学生, 大学院生

一般の方もご参加いただけます。

※定員を超えた場合、入場をお断りすることがございます。

【講演内容】

英語による詩の朗読とジャズの生演奏

※講演中の通訳はございません。

【企画】

Gayle K. Sato (明治大学文学部専任教授)

Hiroko Shibakawa (岡山大学大学院教育学研究科

ESD協働推進室コーディネーター)

Lawson Fusao Inada

ローソン・フサオ・イナダ

1938年、カリフォルニア州フレズノに日系3世として誕生。祖父母は魚市場を創業、父は歯科医、母は教師。1942年に幼いイナダと家族は強制収容所に収容される。ジャズのベース奏者であり、ジャズの熱烈な愛好家で、カリフォルニア州立大学バークレー校他で詩を学んだ。イナダの詩集は Before the War(1971)を始めとして、アメリカンブックアワード受賞賞の Legends from Camp(1992)などがあり、ジャズと収容所での経験が作品に影響を及ぼしている。日系アメリカ人の経験の記録にとって大きな貢献となる詩集「Only What We Could Carry:日本人収容所の経験(2000)」の編者。詩と日系人収容所を取り扱った映画: What It Means to Be Free に出演。そして息子のマイルス・イナダとアニメーション: Legends from Camp を制作。また、ホワイトハウスや大学、博物館など、全米各地において、詩の朗読や講演など多彩な活動を精力的に行っている。ジャズとのコラボレーションは“最も好む表現方法”としており、ジャズアルバム「Legends and Legacies(2005)」においては、フランシス・ウォン率いるジャズバンドと自作詩の朗読で共演している。オレゴン州桂冠詩人。全米芸術基金賞ほか多数受賞。現在、森美術館で開催中の「ゴッホ・ピトウイーンズ展: 子どものとおして見る世界」の(5月31日~8月31日)トーク・セッション: 「異文化を生きる子どもたち」(7月13日14:00)への出演に際し、初来日。



© The Nature of Words

BIG SOUNDS SOCIETY ORCHESTRA

明治大学公認サークル。明治大学軽音楽クラブ内のビッグバンドとして1961年に活動を開始。現在は軽音楽部から独立し、約60名で活動中。ビッグバンド・ジャズとは Sax/Trumpet/Trombone/Bass/Guitar/Piano/Drums のフルバンドで構成され、計17名前後で演奏するジャズのことである。主な実績として、毎年8月に開催される山野ビッグバンドジャズコンテストにて最優秀賞8回・優秀賞6回の受賞、個人賞においても最優秀ソリスト賞・優秀ソリスト賞を多く受賞。国内・海外演奏旅行や有名海外アーティストとの共演を果たしており、多くのプロミュージシャンを輩出している。



【主催】明治大学文学部(文学部教育・研究振興基金事業)【問合せ】bungaku@mics.meiji.ac.jp

【協力】森美術館 www.mori.art.museum